

1. 研究の概要

1.1 研究の目的

砂防事業においては、砂防設備の設置や砂防林の維持管理作業に伴う現場発生材（木質系廃棄物、表土等）の処理問題等、解決すべき問題が少なからず存在する。一方、地元自治体や流域住民との連携により、砂防林の植樹や育成等が推進されており、その肥料等として地域で製造されたコンポストを活用する動きも現れている。

本研究は、既に始まっている自治体による家庭生ゴミのコンポスト化の動きに着目し、家庭生ゴミを主材料とする有機再生資材（以下「生ゴミコンポスト」という）について、肥料もしくは土壌改良材としての砂防林育成への適用可能性を検討することを目的に実施したものである。

1.2 研究の実施期間

本研究は平成12年8月から平成15年3月にかけて実施したものであり、その概要を本共同報告書にとりまとめた。

1.3 研究の内容および役割分担

本研究の主な内容を次に示す。なお、項目名の括弧内は主担当を示している。

(1) 生ゴミコンポストの現状調査（砂防フロンティア）

生ゴミコンポストの法的位置づけ、品質、製造方法、製造自治体等を調査・整理するとともに、利用事例について調査し、材料の傾向、利用の可能性の基礎情報とした。

(2) 施肥・土壌改良に関する技術基準調査（砂防フロンティア）

砂防分野およびその他の分野における施肥・土壌改良に関する技術基準を調査し、生ゴミコンポストの砂防分野における施用方法検討の基礎情報とした。

(3) 砂防事業における施肥・土壌改良材の使用実態調査（国総研）

砂防直轄事務所における近年の施肥・土壌改良材の使用実態を調査し、生ゴミコンポストの利用のし方を想定する基礎情報とした。

(4) 試験施工（国総研）

自治体で製造している生ゴミコンポストを用い、室内および屋外（砂防工事現場）にて試験施工を行い、施用方法について検討した。

(5) 生ゴミコンポストの利用可能性の検討（国総研・砂防フロンティア）

上記調査・実験・検討を基に、砂防事業における生ゴミコンポストの利用可能性を検討・整理した。

図1-1に、作業フローを作業年次も含めて示した。

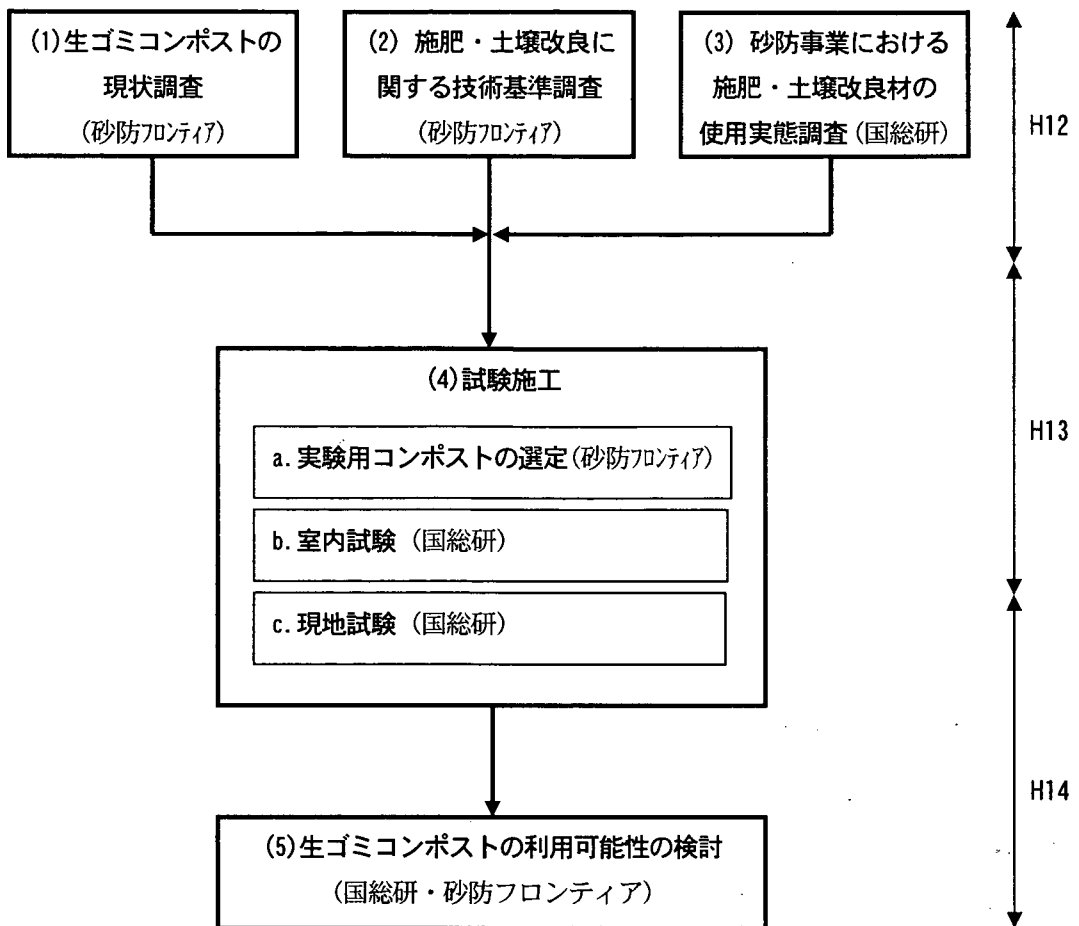


図 1-1 作業フロー